

■私大等 PF 意思決定委員会における

石川中央都市圏内の高等教育のグランドデザインに関する意見交換について

日 時：令和5年9月21日（木）

場 所：ハイフレックス

参加者：次頁参照（議長：幹事校 金沢工業大学 大澤学長）

大澤議長より、石川中央都市圏内の高等教育のグランドデザインの意見交換に関して、前々回の令和3年10月および前回の令和4年9月の継続的な議論に引き続き、今回は石川中央都市圏に所在する高等教育機関に期待すること・求めるものについて、アフターコロナにおける各自治体の具体的なニーズを高等教育機関として把握する必要があると考えている。そのため、私大等PFに参画している各自治体から意見をいただいた。

主な意見は次の通り。

・金沢市 都市政策局担当次長（兼）地域力再生課長 安江様

学生には授業やフィールドワークを通して、金沢市や石川中央都市圏の魅力を感じる体験・発見をしてほしい。フィールドワークでは人や地域と関わることができるため、地域の魅力を深く印象に残すことで、「帰ってきたい」「戻りたい」という思いにつなげたい。各大学等には地域のフィールドを教育・研究の実践の場として活用してほしい。

・内灘町 都市整備部担当部長 宮本様

人口減少対策、定住促進を目標とすることには変わりはないが、そのステップとして「交流人口」や「関係人口」を増加させていくことが目標達成につながると思われる。そのため、各大学等の学生・教職員には、地元の行事やイベントにぜひ参加してほしい。

・野々市市 総務部長 中田様

市内に大学が2つあること、住みよさランキング上位は野々市市の強みである。この地域のよい印象を地元就職にどのようにつながられるか。また、地域の魅力発信のために、交流人口を今にも増して増やし、学生が地元に戻っても「また来たい」と思うような市でありたい。今後もイベントや行事を実施していくので、継続して参加してほしい。

また、県外から若者を呼び込み定着させるためには、長期的な視点が必要である。

・金沢工大 大澤議長

各自治体が抱える人口減少に関する課題はすぐに解決できるものではない。大学等は石川中央都市圏の地域もキャンパスととらえ、まずは「交流人口」や「関係人口」を増加する取り組みを、私大等PFの大学等と自治体が企画の段階から関わり、各自治体の行事やイベントを連携して実施していきたい。このような連携により、各自治体の交流人口や関係人口が増加することにつながり、質の高い実践的な教育の実現が可能となり、ひいては人口増加や定住促進につなげていきたい。

最後に大澤議長より、石川中央都市圏内の高等教育のグランドデザインについて、いただいた様々なご意見の内容を整理・統合したうえで、引き続き継続的な議論をしていきたいとまとめられた。

以上

<参加者一覧>

大学、自治体、産業界等		意思決定委員会		出欠	備考
		役職	氏名		
大学等	金沢医科大学	学長	宮澤 克人	○	
	金沢学院大学	学長	秋山 稔	○	
	金沢学院短期大学	学長	高他 毅	○	
	金沢工業大学	学長	大澤 敏	○	幹事校
	かなざわ食マネジメント専門職大学	学長	岡内 祐一郎	欠席	
	金沢星稜大学	学長	大久保 英哲	○	
	金沢星稜大学女子短期大学部				
	金城大学	学長	米島 學	○	
	金城大学短期大学部	学長	加藤 博	○	
	国際高等専門学校	校長	鹿田 正昭	○	
	北陸学院大学	学長	楠本 史郎	○	
	北陸学院大学短期大学部				
	北陸大学	学長	小倉 勤	○	
自治体	金沢市	都市政策局長	村角 薫明	○(代理)	都市政策局担当次長 (兼)地域力再生課長 安江 一智
	白山市	企画振興部長	東 俊昭	欠席	
	野々市市	総務部長	中田 八千代	○	
	内灘町	都市整備部担当部長	宮本 義治	○	
産業界	金沢商工会議所	専務理事	普赤 清幸	○(代理)	総務企画部次長 竹田 和光
	白山商工会議所	専務理事	竹内 茂	○	
	野々市市商工会	事務局長	榭谷 泰裕	○	
	(一財)北陸産業活性化センター	常務理事	福井 聡	欠席	